

外交文書

印刷済

大東

次官

機密 第七

明治 廿七年 四月 九日 發遣

主任

大東

在朝鮮

大島特命全權公使殿 增員外務大臣

朝鮮人権東壽権在壽書捕存件

朝鮮人権東壽権在壽書捕存件

未為電信より下送る如令茲に望願

下送る

本年三月に於て朝鮮人李逸植は

一書可平九番の親漢義塾(朴泳叔没三)

生徒が密令に於て捕存せし身余危急に

の間に李逸植は危急に於て公使の

手紙より、面呈を致し、

李逸植復返に儀を備へ必し

李逸植の他を要し李逸植の朝鮮公使の

MT 1128 00067

MT 1128 00066

又ハ千笑の事ニ其レテ警署ノ手續ヲ了スル迄ハ何等
 面答セ
 有ルニテ暫ク向未ノ成リヲ視テ何カノ子教メテ施ト思
 考致シテ警署女ハ去月三十日ニテ朴永及及親
 澤義塾生徒教員ハ私擅監禁犯罪者ト認メ李ハ
 謀殺未遂及謀殺教唆ノ犯罪者ト認メ東京地方
 裁判所ニ告発ノ事ト成リ然レドモ(權在壽
 權在壽モ九本迄植ヲ得ト可係ル者ハ朴永初警
 視廳ニ於テ九本ノ事ニ訊問シ要スル係ル者ハ
 外務省
 九本ハ本迄植ノ引致セラルヤ直ニ口書公使ハ
 由一巡解ニ得伏ルル者有リ(書ラニテモ其物ノ旨
 ニ應セシメ去月三十日夜本者官文ノルル代理公
 使ハヤハレシメ即ニ三十日午方代理公使ヲ本者ニ呼オ
 セ本大臣ヲ親ク面談スル所アリ(去月三十日)
 本大臣ハ是ノ通照ヲ答テ屬事ナリ(口書)又
 即答ヲ促シ(口書)躊躇後巡視ヲ答メ(口書)ハ
 更ニ屬事ノ口書ニ本者ニ即時代理公使ニ来答シ

MT 1128 00069

MT 1128 00068

本メ先こ口代理公使ニ午後七時東京行也
軍事委員会

以テ萬云普道ノ機例ヲ引証シテ實ヲ辯論スル

翌朝ハ晴也(四月丁)我政府ノ機案ニ應答ノ極確者

於こ此ノ時迄何書回答無シ然又同答無シ

此先前口来ト同標ノ事皆ッ機ヲ返ナラシムルニ於ラハ今更

我政府ノ機案ヲ拒絶セラタシモト認シテ外無シ

ト中實ニ此口代理公使ニ承テ上列機案ヲ

然レ照テ此口代理公使ニ承テ上列機案ヲ
外務省

外務省

慮ノ所ヲや我レ機案ニ承テ上列機案ヲ

此口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

徳メ口托トモ此レ機案ニ承テ上列機案ヲ

何ハ確ニ各口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

本口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

口代理公使ノ言本大臣ノ機案ヲ拒絶シラセト

MT 1128 00071

MT 1128 00070

Handwritten notes at the top center, including a red seal and illegible characters.

Main body of handwritten Japanese text on a grid background, arranged in vertical columns from right to left.

MT 1128 00075

MT 1128 00074

REEL No. 1-0055

0305

外務省

大島に渡先廿七年四月九日付機密送分七号ニ附ノ別紙

イ号 朝鮮代官ニ付甲午二月廿三日付通信(受分三七〇号)

ロ号 同日付通信(受分三九〇号)

ハ号 同渡先廿七年三月廿六日付親展送分二五号

ニ号 同渡先甲午二月廿五日付(受分三八七号)

ホ号 同渡先廿七年四月二日付親展送分二六号

ヘ号 同渡先甲午二月廿八日付(受分二六号)

ト号 同渡先廿七年四月廿六日付親展送分二七号

チ号 同渡先甲午二月廿九日付(受分三九〇号)

外、萬國公法抄譯 幸格

大越館事 同廿七年三月廿九日付一五号(印刷物二部)

MT 1128 00076

外交文書
印刷済

萬國公法抄譯

プラケエ、フオデー氏著改定國際公法第二卷

第二編第一章 第三百十九項 第三百二十二乃至三十三

河内正統譯

第三百十九項

條約

今日現存之條約ノ免除ノ制限ニ付キハフデー氏

明瞭ナル説明ヲ与ヘリト曰ク如何ナル理由

アルトモ氏公使ニ其居留者タル馬車ヲ利用スル

外務省

重罪ヲ犯シタル者シテ其國ノ司法處分ヲ免

カレシメ若シハ此レヲ却テ得ザルコト又

公使トシテ其代表所ノ君主ニ對シ相當ノ敬

礼ヲ行フヘキニ依リ如キ場合ニ於テハ公使ニ對シ

成ルヘク礼ヲ為サシメ且テ重罪ノ犯人ノ受渡

シラズ又ハシテ其ニ對シテ犯人カ外交官ノ居留

内ニ潜伏シタルコトヲ確證シタルトキハ其

其先鋒ノ外部ニ對シテ其居留ノ犯人ノ此レヲ

MT 1128 00078

MT 1128 00077

豫防するに必要の取柄ヲ取テ得ルノミナラス而モ
正當ノ手續ヲ經テ取附ルノ手續ヲ請求スル
モ可便ニ於テ拒ミタルトキハカシ以テ之ヲ
了致セリルヲ得ル

外務省

MT 1128 00079

REEL No. 1-0055

0308

并條中の既者法律顧問に依りて
●五ノト、マルクニ氏著國際法第二卷 第一編

第二卷 第五條 (b) 第十三項 第三十八

ノヘニ被譯

(b) 治外法權

第十二項

隨匿權、居留特權、從者治外法權ノ廢

棄セラレタヘ今日ニアリテハ公使ト呈民其居留

若シクハ馬車ノ内隨匿シタヘ犯罪人ヲ引渡ス

外務省

ノ義務カアルモトス公使ト被テ若シ此義務ヲ

盡ササント夫地方官ハ^{威力}ヲ以テ其權利ヲ

保護スルヲ得ヘシ但公使ノ身体ニ侵スルカウキ

ルモノトス

MT 1128 00081

MT 1128 00080

3

獨

憲法外務省法律顧問
シヤル、ト、マル、タ、シ、以、著、外、主、在、必、推、ウ、カ、一、卷、中

六、章、中、為、二、十、九、項、治、外、法、權、ノ、部、為、九、十、二、可、也、

後譯

第三十九項

公使居館ノ特權ハ治外法權上必要ノ結果ナリ

内外人ヲ同ス

ト口是輕罪又ハ重罪ヲ犯シタルモノハ自跡セラレ

者ヲ公使ノ居館内ニ隱匿セシメテ公使駐在國

ノ司法權施行ヲ停止セシムルカヤキ行為ニシテ

外務省

右特權ヲ及ホサレシメントスルニ駐在國政府ノ

獨之權ヲ侵害セシムルモノナリ

若シ一ノ犯罪人カ外國公使館内ニ潛匿シタルコト

ヲ確知シタルトキハ政府ハ公使館ヲ圍繞セシメテ

犯罪人ノ逃セシ豫防セシムルヲ得ルニシテラズ當

該官廳ヲノ正當ノ手段ヲ用テテ要ホムルモ

公使ノ執テ其ヲ渡シテ拒トキハ威力ヲ以テテ

テ之ヲ引致セシムルモ妨ケナキモノトス

MT 1128 00083

MT 1128 00082

4

甲五ノ

カルクツア、アマリ成著平時國際公法第二卷

第三編第四章第十項第二百三十七ハビ

抜譯

第四章 外交官ノ免除

第十項

公使ニ其職務上犯罪人ヲ隠匿スルノ義致カレ

故ニ公使トシテ若シ犯罪人ヲ隠匿スル

ルキハ其職務上ニ非ラズシテ故意ヲ以テ隠匿

外務省

シタルニ過キサルヲ以テ總テ免除ノ旨ヲ請

利ヲ失フモノトス

又逃亡者ヲ隠匿スルモノト請ホルニモ公使トシテ

之ヲ拒絶スルトキハ捜索ニ先ケ外交書類ヲ

取付ケルノ權豫ラフヘク後ケ公力執行者

（駐在官ノ職務上）ヲ其^{長官}任職ニ侵ルセシムルコトヲ公

使ニ通知スルヲ得ル

若シ柄豫ラフコトキハ公使ノ職務上ニ危害ヲ

MT 1128 00085

MT 1128 00084

及ホスノ虞ナキヲ以テ公力執行者^{道々}ハ公使
 ノ居館ニ侵入シ^{此七者}捜査シ^ハル^ルニ^テハ^ハ逮捕
 スルヲ得ヘシ
 如何ニ場合トモ凡公力執行者^ハ公使館^ニ侵
 入スル^ハハ^ハ後^ハノ^ハ處置^ハ宜シカラザル^ルニ^テハ
 結果^ハ外ナラザル^ルニ^テハ^ハ其^ハ影況^ハ及^ヒ責任^ハ即チ公
 使^ニ屬ス^ルニ^テハ^ハキモトス

外務省

MT 1128 00086

6

REEL No. 1-0055

0312

若非國使自許。則巡捕關吏不能進其住屋。但不可恃以庇匿罪犯。從前國使曾有藏匿罪犯者。故現今此權少減。(譯譯 原文ニ依レハ今以テ實例ナシト)

右 亦ハ井トシ氏萬國公法第三卷第九條 至若者者半人

按今例。若罪犯非使臣之家屬。隨從等。逃匿公署。則地方官可請交還。使臣不聽。即可入內以捕之。甚至折毀門戶。可也。賓氏曰。國君豈有遣使。而欲其公署為遁逃藪耶。

右 ヲルジ一氏萬國公法二百二十五頁 原若者者半人 注風其譯

外務省

MT 1128 00087

(デビス國際公法百五十二(一)) 原書名米人

ホク公使館ヲシテ罪人隠蔽ノ場所タラシムルヲ得ス
公使館ニ逃避シタル犯罪人ハ之カ引渡ヲ請求ス
ルヲ得而シテ若シ之カ引渡ヲ拒絶セラレタル時
ハ公力ヲ以テ其罪人ヲ逮捕スルヲ得

外務省

MT

1128 00088

8

REEL No. 1-0055

0314

英人フイリモール西法三頁(其二百四項)

公使、任所に候ス(カラサレモノニシテ尋常

ノ目法を更ス又ハ收税官更ス此ノ入ル(カラサ

ルハ各法一紙ニ記述スル所ナリ

其ノ事案を並カ右ノ目法ナリ然レテ尚ホ此重

要ナル欠條ニ付隨シテ保庇権ヲ授ケル矣

帝ノ必要ノ極限内用ヲ生シヨルコトアリ

極言スルハ公使、任所ニ至ル至ル法ヲ犯

外務省

シルハ罪ノ逃避處ナリトセリビシキルニシユクガ

カ帝權ヲ據ルノ事ナリ正理ヲ據ルハ使節

派遣ノ目的ヲ據ルハ公ノ為メ習慣ヲ積ル也

此ノ際、各ノ業唐ノ口實上於此セントスル

ノ理由ヲ更ニ考セラルナリト唱ヘルハ正理

ナルコトヲ辨シ置キ、公ノ為メ便宜ナル特權ニ

由來スル契據等ノ實例ニ據リテ充實スル

馬ノコトナリトド、公ノ為メ於テ斯レ特權ノ生

MT 1128 00090

MT 1128 00089

之家内より市内、諸官區及、都分、派、
ラレタルコトアリ

英(ホー)ル憲法英百七十六七頁

外交官、信家、其職務執行ヲ全クスルニ
必要ナル所、當地官權權ノ施行、欠係ス

ヘキコトニ一必、復言セラルル所ナリ 弊此先陣

ニ返存於テニ使、逮捕、し、ま、た、外務省 捜索

外務省

スルノ理由アル場合ニ於テハ、効力ハキコトニ

年、拘決定セラルル所ナリ、特種ノ意思ヲ全ク

スルものニ存スル、欠係、其、特種ヲ重視スル、権利

ノ生スル、を、ラ、消滅スル、因、了、自、然、ノ、理、ナ

リ、中カラ、チ、ン、式、御、者、事、件、ニ、於、テ、英、意、政府 領、土、

ノ、使、信、行、内、ニ、テ、後、御、者、逮捕スル、ノ、権、利

ヲ、唱、へ、世、ノ、後、又、使、都、会、時、於、テ、右、犯、罪

ハ、ソ、リ、後、カ、シ、ム、ル、カ、又、ニ、テ、逮捕、ヲ、遂、ル、ル、取

MT 1128 00092

MT 1128 00091

極、る、ハ、シ、ム、ル、ノ、礼、通、上、者、速、捕、者、後、
後、際、之、通、者、ハ、コ、ト、ノ、旨、ト、セ、リ

外務省

MT 1128 00093

REEL No. 1-0055

0317

七年、又フ、ド、マル、ン、氏、著、國、際、法、類、卷、五、章
 九、百、二、十、項、陸、軍、權、ノ、部、九、百、三、十、一、三、五、項、譯
 九、百、二、十、項、
 若シ外國、^不、^理、^マ、^公、^使、^ノ、^被、^殺、^シ、^陸、^軍、^所、^ト、^ナ、^レ
 犯罪人、^シ、^テ、^處、^刑、^シ、^免、^カ、^レ、^シ、^ル、^ノ、^持、^權、^{アル}、^モ、^ト
 主張シ、犯罪人、^ヲ、^公、^使、^館、^外、^ニ、^放、^逐、^ス、^ル、^ノ、^請、^示、^ハ、
 應、^ヤ、^サ、^ル、^ト、^キ、^ハ、^官、^廳、^ニ、^對、^シ、^テ、^敬、^禮、^ヲ、^失、^シ、^ル、^モ、^ト、^ス
 若シ右、犯罪、^重、^大、^ニ、^シ、^テ、^唯、^タ、^其、^逃、^レ、^ル、^方、^々、^ル、^ノ
 外務省
 公使館ノ外、^部、^ニ、^於、^テ、^相、^當、^ノ、^取、^締、^ヲ、^ナ、^ス、^ル、^ハ
 三、^年、^以、^上、^ニ、^シ、^テ、^能、^ハ、^サ、^ル、^ト、^キ、^ハ、^公、^使、^館、^ノ、^書、^類、^公、^使、
 身体、^及、^シ、^其、^他、^款、^ノ、^身、^体、^ニ、^シ、^テ、^危、^害、^ヲ、^及、
 ホ、^シ、^ル、^コ、^ト、^ナ、^ク、^レ、^テ、^犯、^罪、^人、^ノ、^借、^伏、^シ、^得、^ル、^部、^内、^ノ、^地、
 所、^ヲ、^悉、^ク、^搜、^索、^ス、^ル、^ハ、^キ、^キ、^テ、^官、^廳、^ニ、^書、^類、^ノ
 取、^引、^付、^ヲ、^ス、^ル、^ハ、^キ、^キ、^テ、^公、^使、^館、^ニ、^通、^告、^ス、^ル、^ハ、^外
 手、^段、^ヲ、^カ、^ル、^ヘ、^シ
 公使、^ノ、^被、^殺、^若、^シ、^再、^ヒ、^以、^法、^ホ、^リ、^拒、^ッ、^ト、^キ、^ハ、^官、^廳、^ニ、^於、^テ

MT 1128 00095

MT 1128 00094

ハ不得止威カヲ用ヒテ權利ヲ施行スルニ至リ公使
ハ自カラ最卑其國ニ駐在スルヲ得サレ場合
ニ臨ルニ至レハシ

右のキ場合ニ至リハ公使ノ職務ニ當リ正當ノ
取扱方ヲ為シ且犯罪人ヲ逮捕シ得ル必要ノ程
ニ至ラレバ公使ヲ帰國セシムル

有るニシテ物品ヲ採集スルニ必要ト使
用セテ

公使館員一同退散シタ後々ハ

外務省

駐公使館ニ附帯スル免陸橋防~~成~~スニキス上之

MT 1128 00097

MT 1128 00096

急

大臣
澤

親展 第九號

明治廿七年四月十三日
同廿七年四月十三日發達

主任

改

長

横田民利局長

重野清局長

於歸身ノ其體字ニテ金玉均ノ般言ニシ

件ノ旨ノ飯田等地方裁判所豫審判了

外務大臣ノ宛ル照會ノ旨ノ對シテ子由通及向

外務省

五ノ三ノ九ノ九ノ九ノ九

ヤ

MT 1128 00099

MT 1128 00098

REEL No. 1-0055

0320

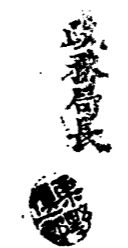
大正

第八號

明治廿七年四月十三日發遣

主任

陸軍



東洋地裁判所

外務省

豫書到日叙回高野殿

軍醫官了郎

昭統三年三月九日...

植外之...

外務省

遂書...

桐乃加...

外務大臣...

上海...

九...

同...

MT 1128 00101

MT 1128 00100

REEL No. 1-0055

0321

金玉均殺害事件の経緯を述べた手紙の写し

金玉均殺害事件の場所

一上海鐵馬路日本旅館吉島徳三子ナリ

金玉均殺害事件の年月日時

金玉均殺害事件の経緯を述べた手紙の写し

金玉均殺害事件の経緯を述べた手紙の写し

金玉均殺害事件の模様

外務省

明治三十二年三月九日午後金玉均ハサシガ氣分悪シトテ

寢臺ノ上ニ横卧シ他ハ洪鐘宇一人ニ室内ニ在リテ

蔭仁(金玉均の秘書)其先一時頃ヲ所用トリテ外出シ北原(金玉均の秘書)

ホ金玉均ノ同事トヨリテ二階ヲ下リ然レ向モナリ爆竹ノ如キ

音ニ驚聞ニ繞ヒテ洪鐘宇飛ブカ如クニ二階ヲ下リテ戸外ハ

走り出テタルヲ以テ北原ハ何カ於事起リタニヤト曰ク外ハ

出ラタレト更ニ度ハリシ模様モナリ其中洪ハ何レハ針キコヤ

影ヲモ見失ヘリ曰ク旅者及ビ主人等モ皆短銃ノ

MT 1128 00103

MT 1128 00102

音トハ思ハ設ケザルコトヲ人々爆竹ト誤リ斬ク其音等ノ騷
カシキク氣附キ慘劇ノ起リタリ知リシハ既ニ犯人戶外ニ逃
走セルノ時ナリト云フ

金玉均ノ屍体ニ三箇ノ銃創アリハ左ノ肋骨下部ヲ貫キテ銃丸
道ニハ毛布及ニ着衣ヲ貫キテ腹部ヲ度ニハ背面左肩骨ノ下部ヲ穿
テリ銃丸ノ既ニ殺セシムルキチ致セザルコトハ一箇ノ廊下ニ散ル

之ヲ見シト通者お指ノ額ト大ヤク均ヲ思フ共ニ其少シク前ノ洋服
服ニ朝鮮服ノ着衣ノ見セバ其時既ニ連発ノ短銃ヲ袖裡

外務省

ニ藏シ室内人オキ乘ニ寢臺ノ上ニ彼ノコトヲ不意ニ兇

行ヲ加ハ尚其逃レ去ラレトスル処ヲ皆後ヲ繞テ第三條ヲ放テ

テテ人オキ又ヨリ五六間ヲ隔ル廊下ニ仆レ屍先ニ見ナリ

加害者拿捕ノ顛末

警察署署長於テハ既ニ八方ニ手ヲ分ケ兇行者ノ行衛ヲ捜索中

ノ如ク断テ夜ハ其踪跡ヲ得聖終オホ三時頃吳松也傍ノ

一民家ノ階伏セテ見シ捕中 高港(連)本ヨリ明

ルハ四寅ノ會高街門ノ引込ニ於テナリ

MT 1128 00105

MT 1128 00104

外交文書

印刷済

大臣

次官



機密 第四四〇番

大正十二年四月十二日

機密第二十八號

吉野政務局 吉野

朴泳孝謀殺未遂事件ニ関シ
 東壽外務省引渡並李逸植等
 有委任状ニ偽造ノ方樹后ノ件
 本邦在留朝鮮人李逸植ニ者朴泳孝
 謀殺未遂ノ事ヲ以テ其助ニ逮捕セシ
 審判中トシテ其系ノ果疑アリ捕東壽
 外務省ハ在東京朝鮮公使館ニ逃工
 而多朝鮮臨時代理公使ニ敢テ其交付ヲ
 拒ニテ本國政府ノ訓令ヲ請ヒタル付本官
 有リ万國ノ公例ニ據リ外務省督弁ニ勸告
 シテ早ク交付ノ訓令ヲ發送セシム旨ノ以
 電訓本官本日午後二時日本官

在朝鮮國日本公使館

外務省督弁、私宅ヲ訪ヒ、督弁久敷病氣
 為テ出勤セズ、以テ電訓、却テ未トク
 督弁ニ治外法權ノ例ニ暗ク在日韓
 人ニ在韓ノ日本人ト同様ニ治外法權ノ特
 例ニ在ルモノ、如ク心得本官、申出テ了
 七、二付本官、電子テ万國ノ通例、兩國
 条約ヲ援テ具ニ説明セシ、又彼ニ漸
 ク了解ニ及ヒタル也、他諸大臣ニ向テ説明ノ材料
 ヲ得テ、皆申出シ、付歸館、後若種万國公
 法ノ内、其要條ヲ摘載シ、テ即夕お進
 呈申出シ、四月三日杉村書記官ヲ督弁
 宅ニ召米、以テ條約書記官ニ向テ本件
 朝廷ニ政府ノ協議ヲお調、在東京臨時

MT 1128 00107

MT 1128 00106

代理公使一電訓スハ平昔申出多ク、處口視
 別紙甲号ノ旨下、通知有之、以乍去、其
 捕の電報到達後、三付本官より、能ハ
 其、次才、以電報ニ及ヒ、ハ、
 將又李逸植ヲ、同、人、審、中、之、大、君
 主陛下、以委任状、ト、稱、ス、モ、二、通、ヲ、呈、出、シ
 タル、三、付、其、主、ノ、旨、ヲ、外、務、省、并、ニ、向、テ、其、性、ハ
 (平昔、四、三、日、朝、以、電、訓、有、之、ハ、三、日、即、日、回
 日、午後、本、官、退、身、ノ、案、内、有、之、善、支、ト、付、) 村
 村、主、記、官、ヲ、并、私、宅、ニ、派、シ、以、電、訓、
 文、ヲ、示、シ、其、主、ノ、旨、ヲ、大、使、サ、セ、テ、外、務、省、并、ニ、
 頭、ヲ、據、リ、李、逸、植、ニ、下、賤、ノ、モ、テ、以、臨、時、代
 在朝鮮國日本公使館

MT 1128 00109

MT 1128 00108

正分書... 改正... 其... 意... 申...
ハ改正ヲ... 民... 之... 不... 并...
付... 之... 而... 其... 不... 并...
知... 之... 對... 別... 兩... 通...
回... 改... 以... 也... 無... 之... 李... 某...
第... 有... 之... 任... 狀... 係... 係... 係... 係...
其... 認... ノ... 以... 付... 四... 日... 其... 越... 五... 々... 電... 票...
ニ及... 与... カル... 譯... 之... 旨... 之... 以...

光緒廿七年四月廿日

特命全權公使大島圭介
外務大臣陸奥宗光殿



在朝鮮國日本公使館

MT 1128 00110

甲辰年 七月廿四日 北到

敬啟者以權東壽兄弟交出對訂書于
月之念七日何
貴公使左顧敵第面商一切嗣在翌日貴
書記官杉村前來代晤訂以本日上午十點
鐘內電飭函明各等語仍於昨日下午二
點鐘由本署電飭駐貴京我公使館
准將兩權自現面訂書記隨即函知差備
官轉承源轉述
台端諒已經
時燭其鮮也將此佈聞順頌

趙秉稷頓首

在朝鮮國日本公使館

MT 1128 00111

乙巳
又朝鮮督辦交涉通事事務趙
其七十四月三日

照會事照得貴國於我曆正月間據駐
京我署公使電稱李逸植權東壽不願執
照踪跡殊異常各情仰當即由本署密飭
三港監理候到拿辦並經派員與國局幫
辦妥期壽等事

貴公使設法拿回以懲奸究項聞該李逸
植權東壽尚在 貴國滋生事端且于本
日 貴署託杉村 東吉 劉奉本政府電
開李逸植帶有餘重文憑宜由該公使
向朝鮮政府照詢是否等因茲先聲明
當聲明照等語本督辦查該李逸植實
在朝鮮國日本公使館

若天恩潛越隣國檢以邦憲是屬回
救應由

貴政府照章查拿一俟訊案了結後將
該李權諸犯先行解交本政府以憑照律
嚴辦實為公允相應備文照會
貴公使請領者照轉達
貴政府施行見覆可也須至照會者

右
大日本特命全權公使大島

甲午二月二十日

MT 1128 00113

MT 1128 00112

再録

第十九号

以昔采致以上修陸天忠若替甲午二月廿八日
署公是分以多を以て忠人本有七人植ノ帯有七
能面立忠ハ實法ニ修若多照今之起陸
神志ハ水ハは正事申ノ本是植植事得
不飲乾照陸跡陸事之再陸派之世國句
卦年若細若言以忠之使陸法今句以陸好
究之より有之使忠右ハ古替若多若多句
少法右之若多若多句其忠若多若多句
吏ハ若多若多句其忠若多若多句
二ツナリハ若多若多句其忠若多若多句
返之ハ若多若多句其忠若多若多句
礼凡行能立本政若多若多句其忠若多若多句

在朝鮮國日本公使館

西以少ハ向行ノ未ノ始ハ切ノ字ヲ三ツナリ約
若多若多句其忠若多若多句其忠若多若多句
不其依ハ此多照世後ハ忠若多若多句其忠若多若多句
以三十七年四月五日

特命全權公使大臣若多若多

精舎立法面忠若多若多若多若多

MT 1128 00115

MT 1128 00114

大長

送友

送友ノ為ニ由リ
ノ書信ニテ日法大
ニ送付ス 四月五日
三月廿五日
三月廿五日

明治廿七年四月十六日起草
同年八月一日發達

外務省

三三

主任

親展 第三九號

伊藤内閣總理大臣

陸軍大臣

朝鮮人李逸植ノ義法救急會ノ主席ヲ以テ

先般ニ書キ友ノ取調ヲ受居ル後ハ

外務省

壬申ノ叛逆人ヲ誅戮スルニ由リ大君主陛下

ノ御慮ヲ具スル詔書ヲ帶有スルヲ自白セシ

趣旨ヲ由テ取リテ之ノ見込ニ要スルニ見

シトモ即チ外務省ニ貯存セテ同忌ヲ以テ

書ニ具スルニ即チ書下大ニ異ナルトシテ書

見込ニ得共既ニ本人ノ自白ニ之ヲ以テ可也

於此ニ義ニ之ヲ以テ本月二日以前に朝鮮

大島中命官格公使ニ由リテ直ニ傳テ

MT 1128 00117

MT 1128 00116

朝鮮政府より公文ヲ以テ四各々ニテキ台訓令
 以テ交越シテ四日回公使より右証書ナルニ估物
 相違ニテ之旨回公使務増毎々公文ヲ以テ回
 答アリテ越覆電有之又此日回公使より接受
 公信中より且于本日貴書記官杉村来言刻奉ニ
 本政府電開李逸植帶有鈔摺文憑宜由該公使
 向朝鮮政府照詢是等因茲先言明嗣當聲
 照等語本増辦查該李逸植履進文憑潛越隣
 外務省
 國揆以邦憲寔屬罔赦本月二日外務省辦
 理公文ヲ以テ申来リ趣稟報有之尤當今
 後此事逸植犯衆事件ニ是ニ裁判断行ニ
 於テ該証書ノ直估ハ証然自ラ判明ス可
 有之を得共本大臣朝鮮政府ニ向テ問札
 ヲ結果一応及テ報告ニ至ル也
 勅

MT 1128 00119

MT 1128 00118

明治廿七年四月十九日發遣
同廿年四月十九日發遣

主任

次官
記

在外多使

外務省

朝鮮、日降

上海、香港、臺灣、朝鮮、日降

朝鮮人権在野會格在野等連押

件

外務省

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

朝鮮人権在野會格在野等連押

中道了也

上海、香港、臺灣、朝鮮、日降

MT 1128 00121

MT 1128 00120

大臣

次官

第六〇六號

廿七年五月九日

主官 政務員

特使等から發信

我政府は在東京朝鮮公使館の特権を犯す事並に刺客を其地王に委任し著るる獨逸公使館の刺客の報告中事件

一昨十日必死の刺客を特使館に奪命の権を侵したるが故に未だ能く在東京地
自願するに直信に據るるが詔考暗殺未遂の朝鮮人逮捕の事は日本政府
在東京朝鮮公使館の特権を犯したるに由る事際加便して非は争ふ事
非は右に之の朝鮮人の公使館外に於て逮捕せしむる事細無き少く其場合
臨み若し多く引渡る拒絶せられ又拒絶せられ身留る事等も其館内に
入て逮捕せしむる何等の事をもしテ萬分公法に許されず増し門外に於ては
勿論我政府は朝鮮公使館の特権を犯して是を以て其國に對し
刑に罰するも其後例に依り朝鮮に送るる事なく其刑に罰せられし
例に依り其九事池運承の始末を我知に指し示すこと相違は分其刑に罰せられし
於て未だ犯罪に非ざる所を行為せしむる前に其頭を以て罰せらるる今日事情に

日本國駐清公使館

今相違は分は相違あり難し事刺客の國主を委任したる事は其地王に對し
朝鮮公使館に對し何等の事をもしテ其館に由りて之を其地王に對し
國王を委任したる事は其館に由りて之を其地王に對し其刑に罰せられし
之何事をもしテ其館に由りて之を其地王に對し其刑に罰せられし
相違あり難し事刺客の國主を委任したる事は其地王に對し自願する個人
トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし
若し其地王に對し其刑に罰せられし事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし
之を其地王に對し其刑に罰せられし事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし
事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし
反問を勿論不問に對し其報告の事は無事下田に於て其報告の事トシテ之を其地王に對し其刑に罰せられし
右申す

明治三十七年四月十六日 臨時代理公使 山村新太郎

外務大臣 陸奥宗光



MT 1128 00124

REEL No. 1-0055

0334

アジア歴史資料センター Japan Center for Asian Historical Records

大臣

次官

田豆

第四〇六號

廿七年五月九日接受

主管 政務局

秘乙第 二七五号

朝鮮人權東壽権在壽金泰元
 本邦進取ノ義ニ付終視總監
 ヨリ別命第一号之通リ上申
 片右ハ控訴院ニ於テモ免訴
 裁免ノ言渡ヲ爲シタル場合
 = 於テハ必要ト爲シタル付
 小命第一号之通リ終視總監
 一訓令ノ及見込ニ付得テ一
 應考大臣ノ任意見承付致度
 此級及照會片也

明治三十七年五月八日

内務省

内務大臣臨時代理

司法大臣芳川顯正



外務大臣陸奥宗光取

MT 1128 00126

MT 1128 00125

REEL No. 1-0055

0335

第百五

上甲

朝鮮人植率所旣在丹金泰元等が朴泳春略殺
 事件。國し明に廿七年に日世百車家成方文おはす
 形官判るに於て免附放免ノ旨改メおしえり以テ
 主任控るゝ之ヲ不忠トシ車家控訴改メ抗争しんは院
 亦其言改メ認めんと言改メるる言や。形ナラむれん
 へもえト名氏植率所チ朝鮮人考免附ト諱り朴泳春
 ラ担當セルト企テタム事。一揆ニカラレル事言テテ例介し
 免付放免ノ言改メりトせんも其ノ免付ノ言改メり去ケ放
 免ヤれんニ言うん免付ノ事ニ多ク其免付ノ事改メり及
 ニト言ひ外ニ多ク其免付ノ事改メり及
 目的ヲ達セルトせんノ惡言ヲ徒續スルヲ以テ免付ノ免付放
 免ハ終ニ免事ヲ遂行せしめ一キ使宣ラ照ラんカ故ニ國子
 ハ萬國公法上ノ自由を以テ國を犯ルラ得難クハ又魯
 ニ依リ兼テ帝國ノ安寧平和ヲ維持せんカメ帝國
 ノ重名格アリテ帝國封域外ニ由テヤルマセおはる
 此等ノ及上甲ノ也

内務省

大正解

免は終ニ免事ヲ遂行せしめ一キ使宣ラ照ラんカ故ニ國子

ハ萬國公法上ノ自由を以テ國を犯ルラ得難クハ又魯

MT 1128 00128

MT 1128 00127

第ニ号

内務省訓令

朝鮮人権東亞橋立金泰元
本邦追放ヲ余スルニ付其旨
本人ハ相違ニ追放執行方ハ
左ノ通川相心得不取滞之
様致サルヘシ

一 本人ハ横濱最近出帆朝
鮮國へ渡航ノ漁船ニ乗

一 追放ヲ余シタル当日直

ニ本邦ヲ去ラシムルハ
勿論ナレモ汽船ノ出帆
ヲ待ツ為メ一時本邦ニ

滞_{内務省}在スルハ止ヲ得サル

義ニ付此場合ニ於テハ
巡查ヲ付シ處ニ取滞ヲ

為スヘシ

一 本人ノ乗込タル汽船本

邦最終ノ寄港場ヲ出帆
スルマラハ其處ニ巡查ヲ

年月日

付シ取滞ヲ為スヘシ

内務大臣

警視總監 宛

親展

MT 1128 00130

MT 1128 00129

大臣

次官

第七一號

明治廿七年五月九日
同廿七年五月九日
起草
日發達
廿九

主任

政務局長

親展

内務大臣代理

加藤吉五

司法大臣芳川謙一郎

朝鮮人権委員格在野金泰元

追放三件

外務省

朝鮮人権委員格在野金泰元等

追放方之戦三完之秋乙第三七五号

在野金泰元等之追放

朝鮮人権委員格在野金泰元等

追放三件

内務大臣代理

加藤吉五

MT 1128 00132

MT 1128 00131

廿七年五月廿二日 警務局



大臣 以

機密 第八五六號

甲秘第一二九號

朝鮮人権東壽権在壽全泰元ノ三名ニ對シ一昨
十九日內務大臣ヨリ追放命令相成候ニ付
同日午後二時三十分其旨本人共ニ傳達シ同
夜九時四十五分警部柏原西一郎巡查高崎
龍之助巡查倉川信行巡查植松義路ヲ付
ニ新橋發演車ヲ以テ護送セシメ尚同地ヨリ
朝鮮行演船便ヲ以テ逐放ノ答ニ有之候條
北段上申候也

警視廳

追テ該命令ニ對スレ受書寫及右三人カ旅
費ニ係ル願書寫ハ別紙之通ニ有之候又
同人等ハ昨日午後五時五十分神戸ハ
到着候旨ヲ護送警部柏原西一郎ヨリ
電報有之候條北段添申候也
明治二十七年五月二十一日

警視廳 總監 田安

外務大臣陸奥宗光殿

MT 1128 00134

MT 1128 00133

REEL No. 1-0055

0339

甲 邦 寫

受 書

權 東 壽

權 在 壽

全 泰 元

大日本帝國追放ノ旨内務大臣ヨ
リ命令アリタリ依テ此段相違ス

明治廿七年五月十九日

警視總監園田安賢

右謹テ御請任候也

明治廿七年五月十九日

權 東 壽 押 印

權 在 壽 印

全 泰 元 印

警 視 廳

警視總監園田安賢殿

乙 邦 寫

歸國旅費無之ニ付貴國々費ヲ以テ御支
并被下度相願候也

明治廿七年

權 東 壽 押 印

權 在 壽 印

全 泰 元 印

五月十九日

警視總監園田安賢殿

MT 1128 00136

MT 1128 00135

REEL No. 1-0055

0340

大臣

次官

任七年六月六日接覽

主官 政務局

公才七十五号

二七三

金料事件之關係ノ兩權及金未市原ノ三名
 國外追放ノ審分シテ又ノシテ不ノ多ク
 山港ニ到着ノの沙者ニ事ノ國田亞下視送
 監禁ノ候獲送ノ者ノ多クシテノ警部ヲ
 長崎ニ出帆ノ趣ヲ電報ニテ傳フシテ
 右三名ハ去三十日午前ハ九時ニ名港
 及ノ押送ヲ甚ク思憐ノ念ヲ起ラセテ
 三ノ船中ノ用共シ何レモ上陸ノ不取又朝
 鮮地方在リテ上陸ノ便スルノ事標標モナ
 シ其候ハ日ノ及ビ時ニハ向テ其候五時
 候テ人等並テ其候ノ義立ニテ其候
 事ハ為テ其候上陸ノ事ハ其候ノ使

在朝鮮國釜山港

日本總領事館

昭和二十七年六月六日

主官

總領事 釜田 幸次



外務大臣 北 陸 敬

此ノ警況ハ釜山ノ西邊又極東ノ海軍
 權ハ一名ノ多ク之候多ク其候ニ未
 著スルノ事古聞ノ警部ハ其候ノ多ク
 國田亞下ノ監視ハ直ニ其候ニ其候
 ハ其候セシモ其候ハ人等ノ事ノ事
 何等田檢ヲ檢セカリトノ懸ニ其候

MT 1128 00138

MT 1128 00137

行又杉本佐分代理多使ハ口聲視
臨堂電投、越者事村人等マテ
及才魚ノ也

在朝鮮國釜山港

日本總領事館

MT 1128 00139

REEL No. 1-0055

0342

廿七年六月十一日 陸軍

陸軍事務局

公事七四號

九二四

大島津

降用件

次官

多岐川河より南を朝鮮へ積り貯積存貯
 及び倉庫三名、昨日入港、汽船伊津丸
 二、車着に旅費水情、投宿同所、且是迄
 着積充洋販、腹を初解、衣冠、改、本日
 午前十一時、津江面、小恙汽船、右路多岐
 一、向々生業、又、五月廿六日、津汽船肥後
 丸、同本柳、助上共、車着、大島津、助
 上、一、同本、同日、同月廿六日、東京、廿七日
 自身、入陸、路下、仁、以後、皆、津、初、解、一、伊
 津丸、上、寺、切、手、一、同、解、一、直、一、大、島、津、

在朝鮮國仁川港

日本領事館

向テ帰川ニ趣ケル

右の如く先考申進之

明治三十七年六月十一日

吉田

二專録、能路、石、の



ト格法、吉、林、堂、殿

MT 1128 00141

MT 1128 00140

官

明治廿七年六月十二日
同日 年 月 日 發遣

政務局長

主任

送第 二二二 號

外務大臣陸奥宗光

内務大臣臨時代理

司法大臣芳川顯正殿

今般國外追放ノ處分ヲ受ケタル朝鮮人權

東壽權在壽及ヒ金泰源ノ三名客月二十日

午前伊勢丸ニテ釜山ニ着シ四日午後五時

外務省

船ニテ仁川ニ向ケ發航致シ本月二十日午前十一時

処一到着直ニ服裝ヲ朝鮮服ニ改メ翌

二日午前十一時漢江通シ汽船ニテ京城ニ向ケ

出發致候趣帝國領事ヲ申来候間此

段及由通知候也

MT 1128 00143

MT 1128 00142

12

次官

廿七年十月三日

警務

一第 一四七 號

文第 一四七 號

朝鮮人李連植ニ對シ昨日由務大臣ヨリ
追放命令相成候ニ付同日午後四時其旨
本人ニ傳達シ別紙寫ノ通受書ヲ徴收シ
同日午後九時五十五分新橋港汽車ニテ警
部相原西一郎巡查高崎龍之助ヲ付シ長
崎迄護送セシメ尚田地ヨリ朝鮮行汽船便
ヲ以テ放逐ノ筈ニ有之候條此段上申也

明治廿七年十月二日

警視總監 園田安賢



外務大臣子爵陸奥宗光殿

警視廳

MT 1128 00144

朝鮮人

李逸植

大日本帝國進放ノ旨ノ務大臣ヨリ命令
アリタリ依テ此段相達ス

明治廿七年十月一日

警視總監園田安賢

右謹而御請ス

明治廿七年十月一日

李逸植 拇印

警視廳

MT

1128 00145

REEL No. 1-0055

0346

次官 関

在朝鮮国仁川日本領事館

廿七年十月三十一日接受

善通商局

政務局



一三二四

乙卯一九一三年
神子より追放ヲ命ぜりし免朝野人李逸柱ハ
昨自他後凡便より奉召し越予早送青
其等理事務ハ面会致し予ハ監理ハ
由是より派立し李逸柱ハ上陸ヲ待テ拘留
ノ上日異ハ結ハ整事ナ目下政府ノ命下ヲ待テ
二折ハ越ス方々ニ其後申付テ了
乙卯一九一三年十月三十一日

在仁川

領事館事務代理 永田久吉

外務省 林董政

廿七年十一月五日

MT 1128 00146

公官

在朝鮮國仁川日本領事館

廿七年十一月十二日

外務省



乙卯二〇五号 外務省

第三三五三

我國より在野に於て命令せらるる朝鮮人等之種
々當其の時局に對する一報を以て其の旨を
日付乙卯一九二五年十月廿三日付に於て
六日政府に命じて依りて法務省に送
送す。此の旨を以て其の旨を以て其の旨
具

明治三十七年十月廿七日

仁川領事館了務官永池久士



外務省官林甚敬

MT 1128 00147

REEL No. 1-0055

0348